

都道府縣	名稱	目的及事業	所在地	代表理事	設立許可年月日	事業年度	社員數	備考
東京	社団法人日本技術協會	工人ノ健全ナル向上ヲ圖リ社會ノ福利ヲ增進ス	神田區錦町一ノ六番地ノ一	山田 守	大正三、三、二	三、三、三	一、〇三三	昭和三三、三三、三三現在
東京	火 兵 學 會	會員協同シテ兵器、火藥並ニ精密器械ニ關スル學術研究ヲ行ヒ且其普及ヲ圖ルヲ以テ目的トシ會誌ノ發行、講演、協賛、懇談會ノ開催、調査研究又ハ其補助獎勵等ヲ爲ス	本郷區本富士町東京帝國大學工學部造兵學教室內	日高 鐵一	同 一、三、四、九	同 一、三、三	一、〇三三	
東京	社団法人大日本齒科醫學會	齒科醫學ヲ研究シ其發達ヲ圖ル目的ヲ以テ齒科醫學ニ關スル講演、會誌ノ發行、論文ノ募集、研究調査並ニ授賞等ヲ爲ス	中野區住吉町二五	西村 豐治	同 一、三、四、三	同 一、三、三	三、三、三	
東京	日本機械學會	機械ニ關スル學術技術ノ進歩發達ヲ圖リ且工業ノ發展ニ資スル爲メ諸種ノ調査研究、講演會ノ開催、會誌其他圖書ノ刊行、見學視察等ヲ爲ス	龜町區丸ノ内二ノ二九ノ内 ビルディング内	小野 鑑正	同 一、三、七、四	同 一、三、三	三、三、三	昭和三三、三三、三三現在
東京	社団法人日本內科學會	內科學ニ關スル研究及其ノ獎勵ヲ爲ス爲メ演說會ノ開催、雜誌發行等ノ事業ヲ行フ	神田區淡路町二ノ八	三浦 謙之助	同 一、四、〇、四	同 一、三、三	三、三、三	
東京	工業化學會	工業化學ニ關スル學術技術ノ進歩普及ヲ圖リ化學工業ノ發展ニ資スル爲メ講演會ノ開催、雜誌又ハ圖書ノ刊行、見學、視察、研究調査等ヲ爲ス	神田區駿河臺二ノ五	永井 彰一郎	同 一、三、三、三	同 一、三、三	三、三、三	
東京	電氣通信學會	電信電話ニ關スル學術技術ノ研究知識ノ交換ヲナシ之ニ關スル事業ノ振興ヲ圖ルヲ以テ目的トシ會誌ノ發行、講演等ノ事業ヲ行フ	京橋區銀座西七ノ一電通ビル内	山 本 勇	昭和三三、三、三	同 一、三、三	三、三、三	昭和三三、三三、三三現在
東京	社団法人日本皮膚科學會	皮膚病、瘰癧及泌尿器病ニ關スル研究、研究及獎勵並ニ知識ノ普及ヲ圖ルヲ以テ目的トシ會誌ノ發行、講演會ノ開催、優良業績ノ表彰及雜誌ノ發行等ノ事業ヲ行フ	本郷區元富士町二	太田 正雄	同 一、三、四、六	同 一、三、三	三、三、三	
東京	社団法人日本小兒科學會	電波科學技術ニ關スル知識及交換並ニ研究ヲ行ヒ併セテ電波技術者ノ育成指導ヲ圖ル	龜町區有樂町一ノ三番地ノ六七	丹羽 保次郎	同 一、三、〇、六	同 一、三、三	三、三、三	昭和三三、三三、三三現在
東京	社団法人日本蠶絲學會	小兒科學ニ關スル研究、研究ノ獎勵及知識ノ普及ヲ圖ルヲ以テ目的トシ會誌ノ發行、講演會ノ開催、優良業績ノ表彰及雜誌ノ發行等ノ事業ヲ行フ	龜町區五番町七	河内 全中	同 一、四、三、六	同 一、三、三	三、三、三	
東京	社団法人日本衛生化學會	蠶絲ニ關スル學術ノ進歩發達ヲ圖ル	龜町區有樂町一ノ七番地ノ六	平塚 英吉	同 一、三、七、七	同 一、三、三	三、三、三	
東京	日本鑄物協會	鑄物ニ關スル學術技術ヲ考究シ其改良發達ヲ期スル目的ヲ以テ左ノ事業ヲ行フ 一、講演會ノ開催、圖書ノ刊行 二、講演會ノ開催、圖書ノ刊行 三、工場見學、作業上ノ質疑應答 四、鑄物ニ關スル諸調査會ノ開催	北多摩郡三鷹村東京天文臺構内	關口 鯉吉	同 一、〇、二、八	同 一、三、三	三、三、三	
東京	社団法人日本天文學會	天文學ノ進歩普及ヲ圖ル爲メ左ノ事業ヲ行フ 一、天文月報ノ發行及配布 二、日本天文學會要報ノ發行 三、講演會ノ開催、天體觀覽等	龜町區有樂町一ノ三	石川 一郎	同 一、〇、二、五	同 一、三、三	三、三、三	
東京	社団法人電氣化學協會	電氣化學ニ關スル諸般ノ産業學術ノ進歩發達ヲ圖ル	日本橋區江戶橋二ノ六	田 中 豐	同 一、二、三、六	同 一、三、三	三、三、三	
東京	社団法人熔接學會	熔接ニ關スル學術技術ノ研究並ニ其ノ應用ノ進歩發達ヲ圖ル爲メ左ノ事業ヲ行フ 一、講演會ノ開催、見學會、講習會、懇談會、研究會ノ開催 二、調査會及委員會ノ設置 三、雜誌又ハ圖書ノ發行頒布 四、熔接手ノ養成並ニ檢定	日本橋區江戶橋二ノ六	君島 武男	同 一、三、三、元	同 一、三、三	三、三、三	
東京	社団法人日本護謄協會	「ゴム」工業ニ關スル學術技術ノ進歩普及ヲ圖ルヲ以テ目的トシ左ノ事業ヲ行フ 一、講演會ノ開催 二、見學、視察、研究、調査等 三、見學、視察、研究、調査等	神田區小川町三ノ一〇協和會館	石川 貞吉	同 一、三、三、二	同 一、三、三	三、三、三	
東京	社団法人日本數學物理學會	莊内(山形縣鶴岡市、酒田市、飽海郡、東田川郡、西田川郡)出身及同地域ニ縁故アル醫師並ニ醫學士ノ醫學研究ヲ爲ス目的ヲ以テ左ノ事業ヲ行フ 一、會員ノ研究發表會、講演會ノ開催 二、機關雜誌ノ發行等	澁野川區田端町六三三	清水 武雄	同 一、三、二、四	同 一、三、三	三、三、三	
東京	北里研究所	各種疾病ノ原因及豫防治療方法ノ學理及應用ノ研究ヲ行ヒ之ニ關スル知識ノ普及ヲ圖リ、併セテ豫防治療材料ノ検査及豫防治療品ノ製造ニ從事シ國民保健ノ向上ニ寄與ス 一、研究調査及普及ヲ圖ル 二、會誌及學術上ノ印刷物ノ出版頒布 三、研究ノ獎勵、優秀ナル研究業績ノ表彰	芝區白金三光町一三八	北里 多一	大正七、〇、五	同 一、三、三	三、三、三	昭和三三、三三、三三現在
東京	社団法人日本化學會	化學ノ進歩普及ヲ圖ル 一、研究調査及普及ヲ圖ル 二、會誌及學術上ノ印刷物ノ出版頒布 三、研究ノ獎勵、優秀ナル研究業績ノ表彰	本郷區本富士町一東京帝國大學理學部內	武原 熊吉	昭和六、三、六	同 一、三、三	三、三、三	

都道府縣	名稱	目的及事業	所在地	代表理事	設立許可年月日	事業年度	社員數	備考
東京	日本鑄物協會	鑄物ニ關スル學術技術ヲ考究シ其改良發達ヲ期スル目的ヲ以テ左ノ事業ヲ行フ 一、講演會ノ開催、圖書ノ刊行 二、講演會ノ開催、圖書ノ刊行 三、工場見學、作業上ノ質疑應答 四、鑄物ニ關スル諸調査會ノ開催	北多摩郡三鷹村東京天文臺構内	關口 鯉吉	同 一、〇、二、八	同 一、三、三	三、三、三	
東京	社団法人日本天文學會	天文學ノ進歩普及ヲ圖ル爲メ左ノ事業ヲ行フ 一、天文月報ノ發行及配布 二、日本天文學會要報ノ發行 三、講演會ノ開催、天體觀覽等	龜町區有樂町一ノ三	石川 一郎	同 一、〇、二、五	同 一、三、三	三、三、三	
東京	社団法人電氣化學協會	電氣化學ニ關スル諸般ノ産業學術ノ進歩發達ヲ圖ル	日本橋區江戶橋二ノ六	田 中 豐	同 一、二、三、六	同 一、三、三	三、三、三	
東京	社団法人熔接學會	熔接ニ關スル學術技術ノ研究並ニ其ノ應用ノ進歩發達ヲ圖ル爲メ左ノ事業ヲ行フ 一、講演會ノ開催、見學會、講習會、懇談會、研究會ノ開催 二、調査會及委員會ノ設置 三、雜誌又ハ圖書ノ發行頒布 四、熔接手ノ養成並ニ檢定	日本橋區江戶橋二ノ六	君島 武男	同 一、三、三、元	同 一、三、三	三、三、三	
東京	社団法人日本護謄協會	「ゴム」工業ニ關スル學術技術ノ進歩普及ヲ圖ルヲ以テ目的トシ左ノ事業ヲ行フ 一、講演會ノ開催 二、見學、視察、研究、調査等 三、見學、視察、研究、調査等	神田區小川町三ノ一〇協和會館	石川 貞吉	同 一、三、三、二	同 一、三、三	三、三、三	
東京	社団法人日本數學物理學會	莊内(山形縣鶴岡市、酒田市、飽海郡、東田川郡、西田川郡)出身及同地域ニ縁故アル醫師並ニ醫學士ノ醫學研究ヲ爲ス目的ヲ以テ左ノ事業ヲ行フ 一、會員ノ研究發表會、講演會ノ開催 二、機關雜誌ノ發行等	澁野川區田端町六三三	清水 武雄	同 一、三、二、四	同 一、三、三	三、三、三	
東京	北里研究所	各種疾病ノ原因及豫防治療方法ノ學理及應用ノ研究ヲ行ヒ之ニ關スル知識ノ普及ヲ圖リ、併セテ豫防治療材料ノ検査及豫防治療品ノ製造ニ從事シ國民保健ノ向上ニ寄與ス 一、研究調査及普及ヲ圖ル 二、會誌及學術上ノ印刷物ノ出版頒布 三、研究ノ獎勵、優秀ナル研究業績ノ表彰	芝區白金三光町一三八	北里 多一	大正七、〇、五	同 一、三、三	三、三、三	昭和三三、三三、三三現在
東京	社団法人日本化學會	化學ノ進歩普及ヲ圖ル 一、研究調査及普及ヲ圖ル 二、會誌及學術上ノ印刷物ノ出版頒布 三、研究ノ獎勵、優秀ナル研究業績ノ表彰	本郷區本富士町一東京帝國大學理學部內	武原 熊吉	昭和六、三、六	同 一、三、三	三、三、三	

都道府縣	種類		計
	財團	社別	
北海道			
青森			
岩手			
宮城			
秋田			
山形			
福島			
茨城			
栃木			
群馬			
埼玉			
千葉			
東京			
神奈川			
新潟			
富山			
石川			
福井			
山梨			
長野			
岐阜			
靜岡			
愛知			
三重			
滋賀			
京都			
大阪			
兵庫			
奈良			
和歌山			
鳥取			
島根			
岡山			
廣島			
山口			
徳島			
香川			
愛媛			
高知			
福岡			
佐賀			
長門			
熊本			
大分			
宮崎			
鹿兒島			
沖縄			
合計	105	39	144

科學局主管法人現在數調

(昭和十八年七月末日現在)

科一九

都道府縣	名稱	目的及事業	所在地	代表理事	設立許可年月日	事業年度	社員數	備考
東京都	社團法人日本氣象學會	氣象學、地震學及一般地球物理學ノ研究進歩ヲ輔ケ我國ニ於ケル斯業ノ振興ヲ圖ル 一、機關雜誌ノ發行 二、講演會ノ開催 三、斯業ニ必要ナル圖書雜用紙等ノ出版 四、研究獎勵ノ爲賞牌又ハ賞金ノ贈與若ハ研究費ノ補助	麹町區大手町二ノ七中央氣象社内	岡田武松	昭和六、七、八	四、一、一 翌三、三	一、三三	
神奈川縣	技術研究會	工業ニ關スル學術技術ヲ研究スルヲ目的トス	橫須賀市山王町四八工支會館内		明治三、九、三			三、四、三、三 和、三、三、三 三現在)

科一八

附錄
關係法規

附 録 目 次 表

目 次

文部大臣ノ主管ニ屬スル法人ノ設立監督ニ關スル規程	一頁
文部大臣ノ主管ニ屬スル法人ノ設立及監督ニ關スル規程第五條ノ基本財産ノ指定	二
法人設立申請書進達ニ關スル調査事項	二
民 法	二
民法施行法 (抄)	六
刑法施行法 (抄)	七
非訟事件手續法 (抄)	七
法人ノ役員處罰ニ關スル件	七
私立學校令 (抄)	七
私立學校令施行規則 (抄)	八
高等學校令 (抄)	八
大學令 (抄)	八
所得稅法 (抄)	八
登錄稅法 (抄)	八
登錄稅法施行規則 (抄)	九
私立學校用地免租ニ關スル件	九
私立學校用地免租ニ關スル法律施行方	九

文部大臣ノ主管ニ屬スル法人ノ設立及監督ニ關スル規程

明治三十二年八月十六日 昭和十一年十一月五日
文部省令第三十九號 文部省令第十九號改正

文部大臣ノ主管ニ屬スル法人ノ設立及監督ニ關スル規程左ノ通改正ス

文部大臣ノ主管ニ屬スル法人ノ設立及監督ニ關スル規程

第一條 民法第三十四條ノ規定ニ依リ文部大臣ノ許可ヲ得テ法人ヲ設立セン

トスルトキハ其ノ設立者ニ於テ左ノ事項ヲ具シ文部大臣ニ申請スベシ

一 社團ニ在リテハ定款、財團ニ在リテハ寄附行爲

二 社團ニ在リテハ社員ノ員數

三 財産目録

四 不動産其ノ他重要ナル財産ニ關スル權利ノ所屬ヲ證スベキ書類

五 事業計畫及之ニ伴フ收支豫算書

六 設立代表者ヲ定メタルトキハ其ノ權限ヲ證スベキ書類

七 設立者又ハ設立代表者ノ履歷書

第二條 法人ハ其ノ設立ノ許可ヲ得タルトキハ遲滞ナク前條第三號ノ財産ノ

移轉ヲ受ケ其ノ移轉ヲ了シタル後一月以内ニ之ヲ證スル書類ヲ添附シ其ノ

旨ヲ文部大臣ニ報告スベシ

第三條 法人ハ民法第四十五條、第四十六條又ハ第四十八條ノ規定ニ依リ登

記ヲ爲シタルトキハ二週間以内ニ登記簿謄本ヲ添附シ之ヲ文部大臣ニ報告

スベシ

理事、監事ノ任免又ハ死亡アリタルトキハ二週間以内ニ文部大臣ニ之ヲ報

告スベシ就職ノ場合ニ在リテハ其ノ履歷書ヲ添附スルコトヲ要ス

第四條 法人ハ其ノ定款又ハ寄附行爲ノ變更ノ許可ヲ受ケントスルトキハ左

ノ事項ヲ具シ文部大臣ニ申請スベシ

一 變更ノ條項及理由

二 社團法人ニ在リテハ總會ノ決議録寫、財團法人ニ在リテハ寄附行爲所

定ノ手續ヲ經タルコトヲ證スベキ書類

第五條 法人ハ文部大臣ノ指定スル基本財産ヲ處分シ、收支豫算ヲ以テ定ム

ルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ又ハ權利ノ拋棄ヲ爲サントスルト

キハ文部大臣ノ承認ヲ受ケベシ豫算内ノ支出ヲ爲ス爲其ノ年度内ノ收入ヲ

以テ償還スル一時ノ借入金以外ノ借入金ニ付亦同ジ

第六條 法人ハ宗教ニ關スル維持法人ヲ除キ年度開始前ニ翌年度ノ收支豫算

ヲ文部大臣ニ報告スベシ收支豫算ノ變更アリタルトキ亦同ジ

文部大臣ハ必要ト認メタルトキハ收支豫算ノ變更ヲ命ズルコトアルベシ

第七條 法人ハ年度終了後二ヶ月以内ニ該年度末ノ財産目録ヲ添附シ該年度

ニ於ケル左ノ事項ヲ文部大臣ニ報告スベシ仍大學、高等學校及專門學校ヲ

經營スル法人ニ在リテハ該年度末ノ貸借對照表ヲ添附スルコトヲ要ス

一 事業ノ狀況

二 處務ノ概要

三 收支決算書

四 財産増減ノ事由

五 社團法人ニ在リテハ社員ノ異動狀況

前項及前二條ノ年度ハ定款又ハ寄附行爲ニ特ニ之ヲ定メザルモノニ在リテ

ハ毎年四月一日ニ始リ翌年三月末日ニ終ルモノト看做ス

第八條 法人ハ其ノ事務所ニ左ノ表簿ヲ備フベシ但シ他ノ法令ニ依リ之ニ代

ルベキ表簿ヲ備ヘタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

一 社團法人ニ在リテハ定款、財團法人ニ在リテハ寄附行爲

二 職員ノ名簿及履歷書

三 處務日誌

四 定款又ハ寄附行爲所定ノ議決機關ノ決議録

五 收入簿、支出簿及證憑書類

六 資産臺帳及負債臺帳

七 官公署往復書類

八 其ノ他必要ナル表簿

前項第三號及第七號ノ表簿ハ一年以上、第四號ノ表簿ハ永年、第五號ノ表

簿ハ十年以上之ヲ保存スベシ

第九條 法人ハ主タル事務所ヲ他ノ道府縣ニ移轉シタルトキハ遲滞ナク之ヲ

新所在地ノ地力長官ニ報告スベシ

第十條 法人ノ設立者又ハ法人ヨリ文部大臣ニ提出スベキ書類ハ其ノ主タル

事務所所在地ノ地力長官ヲ經由スベシ

第十一條 地方長官ハ法人ニ於テ民法第七十一條若ハ民法施行法第二十三條

ノ規定ニ該當スル行為アリ又ハ法人ノ行為ニシテ事業ノ遂行上支障アリト

認メタルトキハ其ノ事由ヲ具シ文部大臣ニ報告スベシ

第十二條 地方長官ハ第十條第二項ノ規定ニ依リ意見ヲ附シ又ハ前條ノ規定

ニ依リ報告ヲ爲ス爲必要アリト認メタルトキハ文部大臣ノ指揮ヲ承テ報告

ヲ徴シ又ハ實地ノ調査ヲ爲スコトヲ得

第十三條 法人左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ理事又ハ監事ヲ百圓以下

ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第五條ノ規定ニ違反シタルトキ

二 第八條第一項第一號乃至第七號ノ表簿ノ備付ヲ怠リ又ハ其ノ表簿ニ虛

偽ノ記載ヲ爲シ若ハ記載スベキ事項ノ記載ヲ怠リタルトキ

三 本令ニ定メタル報告ヲ怠リ又ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタルトキ

附則

本令ハ昭和十一年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

文部大臣ノ主管ニ屬スル法人ノ設立及監

督ニ關スル規程第五條ノ基本財産ノ指定

昭和十一年十二月一日

文部省告示第三百六十號

文部大臣ノ主管ニ屬スル法人ノ設立及監督ニ關スル規程第五條ノ基本財産左

ノ通指定ス

一 一定款又ハ寄附行為ヲ以テ基本財産タルコトヲ明示シタル財産

二 寄附行為ニ基本財産ニ關スル規定ナキモノニ在リテハ最近年度末現在

ノ財産目録ニ掲ゲタル基本財産ニシテ昭和十一年十二月一日ニ現存ス

第三十三條 法人ハ本法其他ノ法律ノ規定ニ依ルニ非サレハ成立スルコトヲ

得ス

第三十四條 祭祀、宗教、慈善、學術、技藝其他公益ニ關スル社團又ハ財團

ニシテ營利ヲ目的トセサルモノハ主務官廳ノ許可ヲ得テ之ヲ法人ト爲スコ

トヲ得

第三十五條 營利ヲ目的トスル社團ハ商會社設立ノ條件ニ從ヒ之ヲ法人ト

爲スコトヲ得

前項ノ社團法人ニハ總テ商會社ニ關スル規定ヲ準用ス

第三十六條 外國法人ハ國、國ノ行政區劃及ヒ商會社ヲ除ク外其成立ヲ認

認セズ

第四十四條 法人ハ理事其他ノ代理人カ其職務ヲ行フニ付キ他人ニ加ヘタル

損害ヲ賠償スル責ニ任ス

法人ノ目的ノ範圍内ニ在ラサル行為ニ因リテ他人ニ損害ヲ加ヘタルトキハ

其事項ノ議決ヲ贊成シタル社員、理事及ヒ之ヲ履行シタル理事其他ノ代理

人連帶シテ其賠償ノ責ニ任ス

第四十五條 法人ハ其設立ノ日ヨリ二週間内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ登記

ヲ爲スコトヲ要ス

法人ノ設立ハ其主タル事務所ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以

テ他人ニ對抗スルコトヲ得ス

法人設立ノ後新ニ事務所ヲ設ケタルトキハ一週間内ニ登記ヲ爲スコトヲ要

ス

第四十六條 登記スヘキ事項左ノ如シ

一 目的

二 名稱

三 事務所

四 設立許可ノ年月日

五 存立時期ヲ定メタルトキハ其時期

六 資産ノ總額

七 出資ノ方法ヲ定メタルトキハ其方法

八 理事ノ氏名、住所

前項ニ掲ケタル事項中ニ變更ヲ生シタルトキハ一週間内ニ其登記ヲ爲スコ

トヲ要ス登記前ニ在リテハ其變更ヲ以テ他人ニ對抗スルコトヲ得ス

第四十七條 第四十五條第一項及ヒ前條ノ規定ニ依リ登記スヘキ事項ニシテ

官廳ノ許可ヲ要スルモノハ其ノ許可書ノ到達シタル時ヨリ登記ノ期間ヲ起

算ス

第四十八條 法人カ其事務所ヲ移轉シタルトキハ舊所在地ニ於テハ一週間内

ニ移轉ノ登記ヲ爲シ新所在地ニ於テハ同期間内ニ第四十六條第一項ニ定メ

タル登記ヲ爲スコトヲ要ス

同一ノ登記所ノ管轄區域内ニ於テ事務所ヲ移轉シタルトキハ其移轉ノミニ

ル財産

三 一定款又ハ寄附行為ノ規定ニ基キ其ノ他一定ノ手續ヲ經テ基本財産ト爲

シタル財産

四 學校ヲ經營スル法人ニ在リテハ其ノ所有ニ係ル校地校舍

五 前各號ノ外文部大臣ニ於テ各法人ニ付特ニ指定シタル財産

法人設立申請書進達ニ關スル調査事項

明治四十三年十一月十四日

成發普四〇五號 通牒

民法第三十四條ニ依リ本省大臣ノ許可ヲ得テ社團又ハ財團ヲ法人ト爲サント

スルトキハ各地方長官ニ於テ書類ヲ受理シ詳查ノ上意見ヲ附シテ御進達可相

成旨明治三十二年文部省令第三十九號ヲ以テ規定相成居候處將來各規定ニ基

キ申請書ヲ進達セラルハニ當リテハ資産ニ關シ負債若クハ負擔ノ有無等實際

ノ狀況篤ト御調査相成且ツ資産ニ關スル權利ヲ證スヘキ書類ヲ添附セシメ御

副申相成候様致度依命此段及通牒候也

明治二十九年四月二十七日

法律第八十九號 抄

民 法

第二章 法 人

第一節 法人ノ設立

第三十三條 法人ハ本法其他ノ法律ノ規定ニ依ルニ非サレハ成立スルコトヲ

得ス

第三十四條 祭祀、宗教、慈善、學術、技藝其他公益ニ關スル社團又ハ財團

ニシテ營利ヲ目的トセサルモノハ主務官廳ノ許可ヲ得テ之ヲ法人ト爲スコ

トヲ得

第三十五條 營利ヲ目的トスル社團ハ商會社設立ノ條件ニ從ヒ之ヲ法人ト

爲スコトヲ得

前項ノ社團法人ニハ總テ商會社ニ關スル規定ヲ準用ス

第三十六條 外國法人ハ國、國ノ行政區劃及ヒ商會社ヲ除ク外其成立ヲ認

登記ヲ爲スコトヲ要ス

第四十九條 第四十五條第三項、第四十六條及七前條ノ規定ハ外國法人カ日本ニ事務所ヲ設ケル場合ニモ亦之ヲ適用ス但外國ニ於テ生シタル事項ニ付テハ其通知ノ到達シタル時ヨリ登記ノ期間ヲ起算ス

第五十條 法人ノ住所ハ其法人ノ成立ヲ否認スルコトヲ得

第五十一條 法人ハ設立ノ時及ヒ毎年初ノ三ヶ月内ニ財産目録ヲ作り常ニ之ヲ事務所ニ備ヘ置クコトヲ要ス但特ニ事業年度ヲ設ケルモノハ設立ノ時及ヒ其年度ノ終ニ於テ之ヲ作ルコトヲ要ス

社団法人ハ社員名簿ヲ備ヘ置キ社員ノ變更アル毎ニ之ヲ訂正スルコトヲ要ス

第二節 法人ノ管理

第五十二條 法人ニハ一人又ハ數人ノ理事ヲ置クコトヲ要ス

第五十三條 理事ハ總テ法人ノ事務ニ付キ法人ヲ代表ス但定款ノ規定又ハ寄附行爲ノ趣旨ニ違反スルコトヲ得又社団法人ニ在リテハ總會ノ決議ニ從フコトヲ要ス

第五十四條 理事ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五十五條 理事ハ定款、寄附行爲又ハ總會ノ決議ニ依リテ禁止セラレサルトキニ限り特定ノ行爲ノ代理ヲ他人ニ委任スルコトヲ得

第五十六條 理事ノ缺ケタル場合ニ於テ遲滯ノ爲メ損害ヲ生スル虞アルトキハ裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ假理事ヲ選任ス

第五十七條 法人ト理事トノ利益相反スル事項ニ付テハ理事ハ代理權ヲ有セス此場合ニ於テハ前條ノ規定ニ依リテ特別代理人ヲ選任スルコトヲ要ス

第五十八條 法人ニハ定款、寄附行爲又ハ總會ノ決議ヲ以テ一人又ハ數人ノ監事ヲ置クコトヲ得

第三節 法人ノ解散

第六十八條 法人ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

- 一 定款又ハ寄附行爲ヲ以テ定メタル解散事由ノ發生
- 二 法人ノ目的タル事業ノ成功又ハ其成功ノ不能
- 三 破産
- 四 設立許可ノ取消

社団法人ハ前項ニ掲ケタル場合ノ外左ノ事由ニ因リテ解散ス

- 一 總會ノ決議
- 二 社員ノ缺亡

第六十九條 社団法人ハ總社員ノ四分ノ三以上ノ承諾アルニ非サレハ解散ノ決議ヲ爲スコトヲ得但定款ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

第七十條 法人カ其債務ヲ完済スルコト能ハサルニ至リタルトキハ裁判所ハ理事若クハ債權者ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ破産ノ宣告ヲ爲ス

第七十一條 法人カ其目的以外ノ事業ヲ爲シ又ハ設立ノ許可ヲ得タル條件ニ違反シ其他公益ヲ害スヘキ行爲ヲ爲シタルトキハ主務官廳ハ其許可ヲ取消スコトヲ得

第七十二條 解散シタル法人ノ財産ハ定款又ハ寄附行爲ヲ以テ指定シタル人ニ歸屬ス

定款又ハ寄附行爲ヲ以テ歸屬權利者ヲ指定セス又ハ之ヲ指定スル方法ヲ定メサリシトキハ理事ハ主務官廳ノ許可ヲ得テ其法人ノ目的ニ類似セル目的ノ爲メニ其財産ヲ處分スルコトヲ得但社団法人ニ在リテハ總會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス

前二項ノ規定ニ依リテ處分セラレタル財産ハ國庫ニ歸屬ス

第七十三條 解散シタル法人ハ清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ其清算ノ了結ニ至ルマテ尙ホ存續スルモノト看做ス

第七十四條 法人カ解散シタルトキハ破産ノ場合ヲ除ク外理事其清算人ト爲ル但定款若クハ寄附行爲ニ別段ノ定アルトキ又ハ總會ニ於テ他人ヲ選任シタルトキハ此限ニ在ラス

第五十九條 監事ノ職務左ノ如シ

- 一 法人ノ財産ノ狀況ヲ監査スルコト
- 二 理事ノ業務執行ノ狀況ヲ監査スルコト
- 三 財産ノ狀況又ハ業務ノ執行ニ付キ不整ノ虞アルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ總會又ハ主務官廳ニ報告スルコト
- 四 前號ノ報告ヲ爲ス爲メ必要アルトキハ總會ヲ召集スルコト

第六十條 社団法人ノ理事ハ少クトモ毎年一回社員ノ通常總會ヲ開クコトヲ要ス

第六十一條 社団法人ノ理事ハ必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ臨時總會ヲ召集スルコトヲ得

第六十二條 總會ノ召集ハ少クトモ五日前ニ其會議ノ目的タル事項ヲ示シ定款ニ定メタル方法ニ從ヒテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第六十三條 社団法人ノ事務ハ定款ヲ以テ理事其他ノ役員ニ委任シタルモノヲ除ク外總會ノ決議ニ依リテ之ヲ行フ

第六十四條 總會ニ於テハ第六十二條ノ規定ニ依リテ豫メ通知ヲ爲シタル事項ニ付テノ決議ヲ爲スコトヲ得但定款ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

第六十五條 各社員ノ表決權ハ平等ナルモノトス

第六十六條 社団法人ト或社員トノ關係ニ付キ議決ヲ爲ス場合ニ於テハ其社員ハ表決權ヲ有セス

第六十七條 法人ノ業務ハ主務官廳ノ監督ニ屬ス

第六十八條 主務官廳ハ何時ニテモ職權ヲ以テ法人ノ業務及ヒ財産ノ狀況ヲ檢査スルコトヲ得

第六十九條 前二項ノ規定ハ定款ニ別段ノ定アル場合ニハ之ヲ適用セス

第七十條 社団法人ト或社員トノ關係ニ付キ議決ヲ爲ス場合ニ於テハ其社員ハ表決權ヲ有セス

第七十一條 法人ノ業務ハ主務官廳ノ監督ニ屬ス

第七十二條 主務官廳ハ何時ニテモ職權ヲ以テ法人ノ業務及ヒ財産ノ狀況ヲ檢査スルコトヲ得

第七十三條 前條ノ規定ニ依リテ清算人タル者ナキトキ又ハ清算人ノ缺ケタル爲メ損害ヲ生スル虞アルトキハ裁判所ハ利害關係人若クハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ清算人ヲ選任スルコトヲ得

第七十四條 重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ利害關係人若クハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ清算人ヲ選任スルコトヲ得

第七十五條 清算人ハ破産ノ場合ヲ除ク外解散後一週内ニ其氏名、住所及ヒ解散ノ原因、年月日ノ登記ヲ爲シ又何レノ場合ニ於テモ之ヲ主務官廳ニ届出ツルコトヲ要ス

第七十六條 清算中ニ就職シタル清算人ハ就職後一週内ニ其氏名、住所ノ登記ヲ爲シ且ツ之ヲ主務官廳ニ届出ツルコトヲ要ス

第七十七條 清算人ノ職務左ノ如シ

- 一 現務ノ了結
- 二 債權ノ取立及ヒ債務ノ辨濟
- 三 殘餘財産ノ引渡

第七十八條 清算人ハ前項ノ職務ヲ行フ爲メニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲スコトヲ得

第七十九條 清算人ハ其就職ノ日ヨリ二ヶ月内ニ少クトモ三回ノ公告ヲ以テ債權者ニ對シ一定ノ期間内ニ其請求ノ申出ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ要ス但其期間ハ二ヶ月ヲ下ルコトヲ得

第八十條 前條ノ期間後ニ申出テタル債權者ハ法人ノ債務完済ノ後未タ歸屬權利者ニ引渡ササル財産ニ對シテノ請求ヲ爲スコトヲ得

第八十一條 清算中ニ法人ノ財産カ其債務ヲ完済スルニ不足ナルコト分明ナルニ至リタルトキハ清算人ハ直チニ破産宣告ノ請求ヲ爲シテ其旨ヲ公告スルコトヲ要ス

清算人ハ破産管財人ニ其事務ヲ引渡シタルトキハ其任ヲ終ハリタルモノトス

本條ノ場合ニ於テ既ニ債權者ニ支拂ヒ又ハ歸屬權利者ニ引渡シタルモノアルトキハ破産管財人ハ之ヲ取戻スコトヲ得
第八十二條 法人ノ解散及ヒ清算ハ裁判所ノ監督ニ屬ス
裁判所ハ何時ニテモ職權ヲ以テ前項ノ監督ニ必要ナル検査ヲ爲スコトヲ得
第八十三條 清算力結了シタルトキハ清算人ハ之ヲ主務官廳ニ届出ツルコトヲ要ス

第四節 罰則

第八十四條 法人ノ理事、監事又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ五圓以上二百圓以下ノ過料ニ處セラル
一 本章ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ
二 第五十一條ノ規定ニ違反シ又ハ財産目録若クハ社員名簿ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ
三 第六十七條又ハ第八十二條ノ場合ニ於テ主務官廳又ハ裁判所ノ検査ヲ妨ケタルトキ
四 官廳又ハ總會ニ對シ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ
五 第七十條又ハ第八十一條ノ規定ニ反シ破産宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ
六 第七十九條又ハ第八十一條ニ定メタル公告ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告ヲ爲シタルトキ

民法施行法

明治三十一年六月二十一日
法律第十一號 抄

第十九條 民法施行前ヨリ獨立ノ財産ヲ有スル社團又ハ財團ニシテ民法第三十四條ニ掲ケタル目的ヲ有スルモノハ之ヲ法人トス
前項ノ法人ノ代表者ハ民法第三十七條又ハ第三十九條ニ掲ケタル事項其他社員又ハ寄附者カ定メタル事項ヲ記載シタル書面ヲ作り民法施行ノ日ヨリ三月内ニ之ヲ主務官廳ニ差出タシ其認可ヲ請フコトヲ要ス此場合ニ於テ主務官廳ハ其書面カ民法其他ノ法令ニ反スルトキ又ハ公益ノ爲メ必要ト認ムルトキハ其變更ヲ命スルコトヲ要ス
前項ノ規定ニ從ヒテ認可ヲ得タル書面ハ定款又ハ寄附行爲ト同一ノ效力ヲ

刑法施行法

明治四十一年三月二十八日
法律第二十九號 抄

第三十四條 前條ニ記載シタル者及ヒ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ公權ヲ剝奪セラレタルモノト看做ス
前項ノ規定ハ復權ヲ得タル者ニハ之ヲ適用セズ
(註)「前條ニ記載シタル者」トハ死刑、無期又ハ六年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ處セラレタル者ヲ謂フ
第三十六條 六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者及ヒ舊刑法ノ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ刑ヲ執行ヲ終リ又ハ其執行ヲ受クルコトナキニ至ルマテ公權ヲ停止セラレタルモノト看做ス

非訟事件手續法

明治三十一年六月二十一日
法律第十四號 抄

第一百七十七條 法人ノ登記ニ付テハ法人ノ事務所所在地ノ區裁判所又ハ其出張所ヲ以テ管轄登記所トス
第二百十條 法人設立ノ登記ハ理事ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
申請書ニハ定款、理事ノ資格ヲ證スル書面及ヒ主務官廳ノ許可書又ハ其認證スル謄本ヲ添付スルコトヲ要ス
第二百十一條 事務所ノ新設又ハ事務所ノ移轉其他登記事項ノ變更ノ登記ハ理事、理事ノ缺ケタル場合ニ於テハ假理事ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
申請書ニハ理事又ハ假理事ノ資格ヲ證スル書面及ヒ事務所ノ新設又ハ登記事項ノ變更ヲ證スル書面ヲ添付シ且主務官廳ノ許可ヲ要スルモノニ付テハ其許可書又ハ其認證アル謄本ヲ添付スルコトヲ要ス
前ニ登記ノ申請ヲ爲シタル理事又ハ假理事カ同一登記所ニ第一項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ其資格ヲ證スル書面ヲ添付スルコトヲ要セズ
第二百二十二條 法人ノ解散ノ登記ハ清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
申請書ニハ解散ノ事由ヲ證スル書面及ヒ理事カ清算人タラサル場合ニ於テハ清算人ノ資格ヲ證スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス

第二十条條 法人ノ代表者カ前條第二項ノ規定ニ從ヒ主務官廳ノ認可ヲ得タルトキハ二週内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス
一 民法第四十六條第一項第一號乃至第三號及ヒ第五號乃至第八號ニ掲ケタル事項
二 主務官廳ノ認可ノ年月日
前項ノ期間ハ主務官廳ノ認可書ノ到達シタル時ヨリ之ヲ起算ス
第一項ノ規定ニ從ヒテ爲シタル登記ハ民法第四十六條第一項ニ定メタル登記ト同一ノモノト看做ス

第二十一條 第十九條第一項ノ法人カ財産目録又ハ社員名簿ヲ備ヘサルトキハ民法施行ノ後遲滞ナク之ヲ作ルコトヲ要ス
第二十二條 法人ノ代表者カ前三條ノ規定ニ反シ認可ヲ受ケ、登記ヲ爲シ又ハ財産目録若クハ社員名簿ヲ作ルコトヲ怠リタルトキハ五圓以上二百圓以下ノ過料ニ處セラル
第二十三條 第十九條第一項ノ法人カ其目的以外ノ事業ヲ爲シ又ハ認可ノ條件ニ違反シ其他公益ヲ害スヘキ行爲ヲ爲シタルトキハ主務官廳ハ其解散ヲ命スルコトヲ得
第二十四條 民法ノ規定ニ依リ法人ニ關シテ登記シタル事項ハ裁判所ニ於テ遲滞ナク之ヲ公告スルコトヲ要ス
第二十五條 主務官廳カ正當ノ理由ナクシテ法人ノ設立許可ヲ取消シ又ハ其解散ヲ命シタルトキハ其法人ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
第二十六條 法人ノ清算人カ民法第七十九條及ヒ第八十一條第一項ノ規定ニ依リ爲スヘキ公告ハ裁判所カ爲スヘキ登記事項ノ公告ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス
第二十七條 剝奪公權者及ヒ停止公權者ハ法人ノ理事、監事又ハ清算人タルコトヲ得ス
第二十八條 民法中法人ニ關スル規定ハ當分ノ内神社、寺院、祠宇及ヒ佛堂ニハ之ヲ適用セズ

法人ノ役員處罰ニ關スル件

大正四年六月二十一日
法律第十八號

法人ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、理事、監查役又ハ監事ニシテ刑事訴訟道又ハ刑ヲ執行ヲ免レシムル爲合併其ノ他ノ方法ニ依リ法人ヲ消滅セシメタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

私立學校令

明治三十二年八月三日
勅令第三百五十九號 抄

第一條 私立學校ハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外地方長官ノ監督ニ屬ス
第二條 私立學校ノ設立廢止及設立者ノ變更ハ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ
第二條ノ二 私人ニシテ中學校又ハ專門學校ヲ設立セムトスルトキハ其ノ學校ヲ維持スルニ足ルヘキ收入ヲ生スル資産及設備又ハ之ニ要スル資金ヲ具ヘ民法ニ依リ財團法人ヲ設立スヘシ
第三條 私立學校ニ於テハ校長若ハ學校ヲ代表シ校務ヲ掌理スル者ヲ定メ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ
本令中校長ニ關スル規定ハ之ヲ學校ヲ代表シ校務ヲ掌理スル者ニ適用ス
第九條 私立學校ノ設備授業及其ノ他ノ事項ニシテ教育上有害ナリト認メタルトキハ監督官廳ハ之カ變更ヲ命スルコトヲ得
第十條 左ノ場合ニ於テハ監督官廳ハ私立學校ノ閉鎖ヲ命スルコトヲ得
一 法令ノ規定ニ違反シタルトキ
二 安寧秩序ヲ紊亂シ又ハ風俗ヲ壞亂スルノ虞アルトキ
三 六箇月以上規定ノ授業ヲ爲ササルトキ
四 法令ノ規定ニ依リ監督官廳ノ爲セル命令ニ違反シタルトキ
第十一條ノ二 大學、專門學校、高等學校又ハ中學校ニ於テハ毎學年又ハ每事業年度ノ開始前收支豫算ヲ定メ、毎學年又ハ每事業年度ノ終了後收支決算ヲ爲シ監督官廳ニ届出ツヘシ
監督官廳ハ必要ト認ムルトキハ收支豫算ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第十二條 第十條ニ依ル處分ニ對シテハ訴訟法ニ依リ訴訟スルコトヲ得

私立學校令施行規則

明治三十二年八月三日
文部省令第三十八號 抄

第一條 私立學校令第二條ニ依リ私立學校設立ノ認可ヲ受ケントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル書類ニ校地、校舍、寄宿舎ノ圖面ヲ添ヘ監督官廳ニ申請スヘシ

- 一 目的
- 二 名稱
- 三 位置
- 四 學則
- 五 經費及維持方法

前項第一號乃至第四號ノ變更ハ監督官廳ノ認可ヲ受ケ校地、校舍、寄宿舎ノ變更ハ監督官廳ニ開申スヘシ

第二條 學則ニハ左ノ事項ヲ規定スヘシ

- 一 修業年限、學年、學期、休日ニ關スル事項
- 二 學科課程、授業時間ニ關スル事項
- 三 試験ニ關スル事項
- 四 入學退學ニ關スル事項
- 五 授業料、入學料等ニ關スル事項
- 六 賞罰ニ關スル事項
- 七 寄宿舎ニ關スル事項
- 八 職員ノ職務ニ關スル事項

高等學校令

大正七年十二月六日
勅令第三百八十九號 抄

第四條 私立高等學校ハ財團法人タルコトヲ要ス但シ特別ノ必要ニ因リ學校經營ノミヲ目的トスル財團法人カ其ノ事業トシテ之ヲ設立スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

十三

第十九條 左ニ掲クルモノニハ登録稅ヲ課セス但シ第二條ノ二、第八號乃至第九號ノ四、第十一號、第十一號ノ三、第十二號及第十四號乃至第十七號ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ

- 一 神社ノ敷地ニ關スル登記
- 二 墳墓地ニ關スル登記
- 三 學校經營ヲ目的トスル法人ノ土地、建物ノ權利ノ取得又ハ所有權ノ保存ノ登記

登録稅法施行規則

明治三十二年五月十九日
勅令第二百五號 抄

第五條ノ三 學校經營ヲ目的トスル法人ノ左ニ掲クル土地建物ノ權利ノ取得又ハ所有權ノ保存ノ登記ニハ登録稅法第十九條第十四號ノ規定ニ依リ登録稅ヲ免除ス

- 一 校舍及寄宿舎、圖書館其ノ他ノ保育又ハ教育上必要ナル附屬建物
- 二 前號ニ規定スル建物ノ敷地及運動場、實習用地其ノ他ノ直接ニ保育又ハ教育ノ用ニ供スル土地

私立學校用地免租ニ關スル件

大正八年四月五日
法律第三十八號

第一條 左ニ掲クルモノノ用ニ供スル土地ニ付テハ納稅義務者ノ申請ニ因リ其ノ地租ヲ免除ス但シ有料借地ハ此ノ限ニ在ラス

- 一 私立ノ幼稚園、中學校、高等女學校、實業學校、專門學校、高等學校及大學
- 二 前號ニ掲ケサル私立學校ニシテ大藏大臣ニ於テ指定シタルモノ

第二條 前條ノ規定ニ依リ地租ヲ免除スヘキ土地ハ校舍及寄宿舎、圖書館其ノ他保育又ハ教育上必要ナル附屬建物ノ敷地並運動場、實習用地其ノ他直接ニ保育又ハ教育ノ用ニ供スルモノニ限ル但シ收益ヲ生スル土地ニ付テハ

第五條 前條ノ財團法人ハ高等學校ニ必要ナル設備又ハ之ニ要スル資金及少クトモ高等學校ヲ維持スルニ足ルヘキ收入ヲ生スル基本財産ヲ有スルコトヲ要ス但シ其ノ基本財産ノ額ハ五十萬圓ヲ下ルコトヲ得ス
基本財産中前項ニ該當スルモノハ現金又ハ國債證券其ノ他文部大臣ノ定ムル有價證券トシテ之ヲ供託スヘシ

大學令

大正七年十二月六日
勅令第三百八十八號 抄

第六條 私立大學ハ財團法人タルコトヲ要ス但シ特別ノ必要ニ因リ學校經營ノミヲ目的トスル財團法人カ其ノ事業トシテ之ヲ設立スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七條 前條ノ財團法人ハ大學ニ必要ナル設備又ハ之ニ要スル資金及少クトモ大學ヲ維持スルニ足ルヘキ收入ヲ生スル基本財産ヲ有スルコトヲ要ス
基本財産中前項ニ該當スルモノハ現金又ハ國債證券其ノ他文部大臣ノ定ムル有價證券トシテ之ヲ供託スヘシ

所得稅法

昭和十五年三月二十九日
法律第二十四號 抄

第四條 北海道府縣市町村其ノ他命令ヲ以テ指定スル公共團體、神社及民法第三十四條ノ規定ニ依リ設立シタル法人ハ所得稅ヲ課セス（昭和十五年法律第二十四號ヲ以テ本條ヲ改正）

登録稅法

明治二十九年三月二十八日
法律第二十七號 抄

第二條 不動産ニ關スル登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

- 一 遺言、贈與其ノ他無償名義ニ因ル所有權ノ取得
不動産價格 千分ノ四十
- 二 但シ神社、法人タル宗教團體又ハ民法第三十四條ニ依リ設立シタル法人ハ無償名義又ハ寄附行為ニ因リ所有權ヲ取得シタルトキハ千分ノ二

大藏大臣ハ免租スヘキ區域ヲ制限スルコトヲ得

第三條 北海道府縣市區町村其ノ他ノ公共團體ハ本法ニ依リ免租セラレタル土地ニ對シ租稅其ノ他ノ公課ヲ課スルコトヲ得ス

附則
本法ハ大正九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

私立學校用地免租ニ關スル法律施行方

大正八年十二月二十二日
大藏省令第三十三號

私立學校用地免租ニ關スル法律施行方左ノ通之ヲ定ム

私立學校用地ニ對シ地租ノ免除ヲ請ハムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄稅務署長ニ申請スヘシ

- 一 所在郡、市區町村並土地ノ字、番號、地目、段別又ハ坪數、地價及其ノ用途
- 二 學校管理者ト納稅義務者ト異ナルトキハ無料借地タルコトヲ證スル書面
- 三 學校ノ設立又ハ變更ノ年月日

前項ノ申請ヲ受ケタル場合ニ於テ收益ヲ生スル土地アルトキハ稅務署長ハ大藏大臣ニ稟議スヘシ
地租ノ免除ヲ受ケタル土地ニシテ之カ供用ヲ廢止シ又ハ無料借地ヲ有料借地ト爲シタルトキハ土地所有者又ハ納稅義務者ハ直ニ所轄稅務署長ニ届出ツヘシ

附則

本令ハ大正九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

家屋稅法

昭和十五年七月十三日
法律第百八號 抄

第三條 左ニ掲グル家屋ニハ家屋稅ヲ課セス但シ有料借家ハ此ノ限ニ在ラス
一 國、北海道、府縣、市町村其ノ他命令ヲ以テ指定スル公共團體ニ於テ

附九

- 公用又ハ公共ノ用ニ供スル家屋
- 二 神社、寺院又ハ教會ノ用ニ供スル家屋
- 三 國寶保存法又ハ史蹟名勝天然紀念物保存法ニ依リ國寶又ハ史蹟若ハ名勝トシテ指定セラレタル家屋
- 四 私立ノ幼稚園、中學校、高等女學校、實業學校、專門學校、高等學校及大學並ニ大藏大臣ノ指定スル其ノ他ノ私立學校ニ於テ直接ニ保育又ハ教育ノ用ニ供スル家屋
- 五 其ノ他命令ヲ以テ定ムル家屋

昭和十八年十月十日印刷
 昭和十八年十月十五日發行

文 部 省

東京都京橋區湊町二丁目十六
 印刷人 篠 倉 政 一

東京都京橋區湊町二丁目十六
 印刷所 第一印刷所

電話築地局(三〇六〇番
 三〇六一番)

皆 さん

- 読書の前後によく手を洗い
- ゆびをなめずにページをひらき
- 表紙を巻きかえさず
- 書き込みや折り目もつけず
- いつも気持がよいように

読みましょう

東京・丸善製



